

別記様式

会 議 録

会議の名称	平成 29 年度第 6 回 岩舟地域会議
開催日時	平成 29 年 9 月 20 日 19 時 00 分 開会 20 時 16 分 閉会
開催場所	岩舟総合支所 会議室棟 第 1 会議室
出席者氏名	浅野勝、海老沼圭子、櫻井ナミ子、佐山耕基、寺内正市、 中田身和、安藤芳雄、海老沼一利、高久厚子、田中正太郎、五十畑賀章、 相良香津子、瀬下敏明 以上 13 名
欠席者氏名	小倉久緒、斉藤栄吉、真瀬孝
事務局職員職氏名	岩舟地域づくり推進課長 岩崎充、係長 小松原雅人、主査 中田与志人 以上 3 名
その他出席者等	消防総務課長 上岡健司、課長補佐 名淵恭司、係長 青木健一
会議事項	(1) 栃木市消防庁舎整備基本構想（素案）について（意見聴取） (2) 地域予算提案事業について (3) その他
会議の公開又は 非公開の別	公開
傍聴人の数	0 名
その他必要事項	
会議の経過	
発言者	議題・発言内容・決定事項
◆事務局	1. 開 会 2. あいさつ 安藤会長よるあいさつ 3. 議 事
◆担当課	(1) 栃木市消防庁舎整備基本構想（素案）について（意見聴取） 《栃木市消防庁舎整備基本構想（素案）について資料に基づく説明》 栃木市の消防庁舎は岩舟分署を除き、建築から 40 年以上経過しており老朽化が著しく防災拠点施設としての役割を果たせない恐れがあるため、早急に消防庁舎の整備を図る必要があり、消防庁舎整備の考え方の基本となる「栃木市消防庁舎整備基本構想（素案）」を作成したので、意見を伺いたい。
●委員	昔、南消防署を整備したいという構想があったと思うが、今回の基本構想との関連性は。
◆担当課	消防署は栃木市消防署 1 ヲ所と考えている。消防署と分署の違いは、はっきりと定められてはいない。今後は、5 所署体制で考えている。
●委員	平成 27 年 9 月の関東・東北豪雨災害に関する検証結果に基づく今後の防災対策への反映というのを見たが、災害対策本部の設置場所が市庁舎で、水浸しの中、職員が出勤し、消防署も水浸しで動きがとれなかったという話を聞いた。災害時の市の初動体制等を検討したうえで消防署の位置を決めたのか。また、関東・東北豪雨災害では、インターチェンジ周辺の橋が流されたが、防災に強い栃木市の

◆担当課	まちづくりを長期にわたって計画しているのか。 初動体制の検討については、警報が出た場合、各部署の職員〇人が集合するという初動マニュアルを昨年度まとめている。建物については、地域防災計画により市の本庁舎が災害対策本部となるが、地震等により被災して本部機能が果たせない場合は、運動公園が本部となる。また、消防本部の災害対策室と本庁舎の災害対策本部の情報共有については、現在、電話等のレベルであり、新しい庁舎は、映像等の設備を設け、互いの情報共有ができるシステムにする予定でいる。それから、平成 27 年の水害の際は、消防車や救急車が通れる道を選ぶような状態であったが、市と県で協力して巴波川に遊水池みたいなものを作る計画もあり、氾濫が起きないような対策を市で考えてやっている。
●委員	新しい消防署が情報共有を構築するのは理解したが、現状で電話がダウンした場合の対策は。
◆担当課	防災無線がある。
●委員	その防災無線は使えるレベルなのか。また、市の職員は訓練を受けているのか。
◆担当課	使えるレベルにある。
◆事務局	岩舟地域づくり推進課では訓練をしている。
●委員	都賀・西方地域は 1 ヲ所になるようだが、地元住民の話を聞く予定はあるのか。
◆担当課	地域会議で説明する。住民説明会は予定していないが、基本計画策定の際も地域会議で説明する。
●委員	都賀・西方地域は、山や沢があるが、通報から現地へ行くまでどれくらいかかる想定をしているのか。
◆担当課	過去の消防署や消防車両の出勤データや道路状況等を基にした消防力適正配置調査を実施し、図に示した適正位置に消防署を配置するのがいいという結果であった。消防署の数がたくさんあればそれだけ現場に早く着くのは当然だが、そのへんの折り合いをつけるのが判断になる。例えば栃木地域では出流地区まで 20 分ぐらいかかる。だからといって、そこに消防署を作るといふことにはならないと思う。
●委員	統合してコンパクトにするのは、生命財産を守る消防署ではどうかと思う。どうして合併して減るのか。市の予算の都合で消防署を減らすのでは合併した意味がない。
●委員	救急車の到達時間について聞きたい。例えば、岩舟地域に岩舟分署の救急車が来るのもいいが、藤岡から来た方が近い場合もあるのでは。そういう意味で西方・都賀地域も考えればいいのか。
◆担当課	現状の出動態勢は、各分署の出動エリアに境界線はない。119 番が入電すれば、一番近い救急車、消防車が出動する。また、都賀・西方地域は、分署は 1 ヲ所にするが、救急車を 2 台配置する予定である。
●委員	以前は火災の際、大きなサイレンが鳴っていた。今は、小さい防災無線のスピーカーでパワー不足を感じる。お昼のサイレンは大きなサイレンが鳴る。
◆担当課	防災無線のスピーカーを各地域に設置し、それを境に火災のサイレンはそのスピーカーから鳴らすことになった。消防団員には、直接指令室からメールしている。

●会長	他に質問がなければ、この議題については、次の地域会議で回答を検討する。
◆事務局	(2) 地域予算提案事業について ①平成 30 年度実施栃木市地域予算事業計画書について 《資料に基づき説明》 岩舟総合運動場遊具設置事業 事業費 2,910 千円
●委員	事業概要書の事業評価・今後の取組みについて、草刈りやゴミ拾いなどを住民の自らの手で行うようにするとあるが、これについての準備や計画、計画があるのであればゴミ袋などの予算計上はどのようなのか。
◆事務局	設置しただけでは地域予算の意味がないので、公園の草刈りやゴミ拾いなどを一緒にやってもらうボランティア等を募るようなことに繋げていければいいかと思うが、具体的に計画があるわけではない。
●委員	設置後に具体的にゴミ拾いなどをやる場合、予算を計上しておかないと計画もできないのでは。
◆事務局	ゴミ袋程度であれば総合支所にあるので対応できる。
●会長	他に意見がなければ、平成 30 年度実施栃木市地域予算事業計画書について案のとおり決定とし、提出することによろしいか。
●全委員	《了承》
◆事務局	②岩舟総合運動場遊具設置案について 《資料に基づき説明》 岩舟総合運動場遊具設置案 低年齢児対象のロッキング遊具、健康遊具 3 基、健康遊具の説明板
●全委員	《了承》
◆事務局	(3) その他 (仮称) 栃木市文化芸術館・文学館基本設計についての質問の回答 ・文化芸術館に太陽光発電のような電気代を抑制するようなものはないのか。 →文化芸術館の共用部分に、地下水を有効活用した空調システムを採用し、省エネルギーと資源化を図る。また、文化芸術館・文学館ともにLED照明を主体とするなど、高効率な設備機器を採用し、環境負荷の低減やランニングコストの削減を図る。 ・駐車場に大型バスは何台入れるのか。 →大型バス用の駐車スペースは 2 台分 ・集客数やランニングコストはどれくらい見込んでいるのか。 →集客数については、文化芸術館・文学館合わせて年間約 3 万人を見込んでいる。 ランニングコストについては、他自治体の規模や構造が類似する施設を参考に、文化芸術館は年間約 8,300 万円、文学館は年間約 600 万円を見込んでいるが、今後、設備機器などの仕様を検討していくのでそれにより増減する可能性がある。 各種委員の選出について

◆事務局	<p>市民会議委員 相良香津子委員 子ども子育て会議委員 高久厚子委員</p> <p>4. その他</p> <p>平成 29 年度地域予算提案事業について</p> <ul style="list-style-type: none">・岩舟のふるさと PR 事業について <p>《経過報告》</p> <ul style="list-style-type: none">・岩舟の郷土歴史伝承事業について <p>《経過報告》</p> <p>10 月 21 日（土）14:00 開演 岩舟文化会館</p> <p>「下野国の生んだ世界的偉人“円仁”」</p> <p>講師 國學院大學栃木短期大學 教授 酒寄雅志氏</p> <ul style="list-style-type: none">・栃木市地域自治交流会について・各小学校区実働組織の設立 <p>《進捗状況報告》</p> <p>5. 閉 会</p>
------	---